

まちの出来事

オホーツクの空の大きな節目を祝う オホーツク紋別空港開港10周年記念式典

平成11年11月1日に開港したオホーツク紋別空港の10周年記念式典が11月1日、同空港ターミナルビルで開かれ、当日の搭乗者にも紋別の特産品などをプレゼントして、大きな節目を祝いました。

宮川市長は、開港当時には新千歳ジェット便が就航し、翌12年7月には念願の東京羽田直行便が実現したこと、市としても交流拡大プロジェクトによる文化・スポーツ合宿誘致などで実績を上げていることを強調し、「関係機関や地



道営土地改良事業などを手がけている、網走支庁西部耕地出張所の学習農園「ミニ水田」で育てた稲の収穫が11月6日に行われました。

稲刈りに当たったのは、今春に田植えを行った渚滑小学校の5年生の児童11人で、カマを使って大きく伸びた稲を刈り取り、傘掛け作業に励み

西部耕地出張所の学習農園 渚滑小学校稲刈り

稲の品種は、「ななつぼし」で、ミニ水田は、3.6×3.6m(4坪)が2枚。収穫した米は、カレーライスで味わう予定です。



同出張所では「西部ぶち農園事業」のタイトルで、地元学校の宣伝に力を注いでいます。

医療のグランドデザインを 第2回福祉・保健・医療連携市民フォーラム

福祉・保健・医療連携市民フォーラムの第2回講演会が11月14日、文化会館で開催されました。

この分野でのアドバイザーを務めている愛知医科大学教学監の細谷辰之氏が「現在の医療実態と将来」をテーマに、紋別が置かれている現状と改善への方向性について講演しました。

講演では、「地域医療につい

ての抽象的な理念である『グランドデザイン』を掲げ、最終地点を見ながら地道に進めるしかない。しかし変革期は大きなチャンスであり、紋別は一歩リードできる可能性がある」と力を込めました。



多くの親子連れで賑わう オホーツク流水公園一部開園

紋別空港前の海岸沿いに造成された11番目の道立広域公園「オホーツク流水公園」が11月15日、一部オープンしました。

あいにくの悪天候でしたが、同公園の中心施設である「あおぞら交流館」には大型木製遊具などがあり、多くの親子連れが訪れ大賑わいとなりました。子どもたちは遊具で遊んだり広々とした空間を自由に走りまわったりして笑顔を



はじけさせ、保護者も子どもたちのうれしそうな様子に満足そうでした。

同交流館は年末年始を除き無休で、開館は9時から17時まで。入館は無料となっています。